

市政に関する一般質問の概要

3月15日、16日に議員20名が市の考え方をただしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

一般質問では、市議会議員が市長などの執行機関に対して、海老名市の行政事務全般にわたってその執行状況や今後の方針などについて説明を求め、議員の考え方を表明するなど、よりよい市政を目指してさまざまな議論が行われています。

今回は、市民に身近な問題から市の将来に関する問題まで、43項目の一般質問がありました。

一般質問をはじめ、本会議の様子はインターネット中継がされています。

会議録はインターネット上で公開しています。ぜひご覧ください。

<本会議インターネット中継> 市のホームページから「海老名市議会」→「インターネット議会中継」

<会議録検索画面> 市のホームページから「海老名市議会」→「会議録検索」



問 義務教育の基本は人格形成を柱に基礎学力・基礎体力を身につけさせ、物事の良し悪しを判断し、常に「考える力」と「生きる力」を育成することだと考えています。変容する学校教育行政において①小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた平均正答率の改善策②小中一貫教育の有馬中学校区での実践結果と今後の展開③学校再編に向けての進め方④英語教育の今後の取り組みの一四項目について伺います。

答 (教育長) ①計算力が低い学校では全校で時間を決め計算問題に取り組み、国語力の活用が課題の学校では授業で話し合い活動の時間を増やすことなどで、改善の成果が見られています。②小学6年生の中学校への不安感が減り、期待感が増したことなどがアンケートで分かりました。来年度から全中学校区で、子どもの実態や地域の状況に合わせ、学校が9年間で子どもを育てるという教育を進めたいと考えています。③学校施設の長寿命化、学校と他の公共施設との再編成の検討、地域に愛される学校づくりの三点をポイントに短期、中長期、超長期の視点から再整備計画を策定します。

答 (教育部参事) ④実際に英語でコミュニケーションができるえびなっ子をめざして、4か年の英語教育実施計画を策定しました。今後、児童生徒の実践的な体験活動を充実する具体的な取り組みを進めます。



問 環境問題はこれからの中を支えていく若者、これから誕生する新しい命のためにも大きなテーマです。私たちは長期的な展望を持ち、しっかりと取り組む責任があります。その一つとして多くの自治体が抱える課題がごみの減量化です。本市は人口が増加傾向で、まちのぎわいも増しています。家庭系ごみの減量と事業系ごみの減量、それぞれ検討が必要だと思いますが、どのように進めるのか考え方を伺います。

答 (市長) 市と市民の責務をそれぞれが認識し、将来を見据えた対策が重要です。市民や事業者の認識、意識を高めないと考えており、高まった上で、今後、有料化や収集方法なども検討したいと思います。

答 (経済環境部長) 廃棄物対策を環境審議会の所掌事項として明確化し、専門部会設置を可能にする条例改正案を提案しています。平成29年度は審議会委員の改選期ですので、廃棄物対策に精通する方や市民代表による専門部会の設置を考えています。

問 家庭系のごみと事業系のごみでは対応策も異なると思いますが、どのように検討を進めないのでしょうか。

答 (経済環境部長) 別々の専門部会を設けて、家庭系は、ごみ問題研究の専門家や自治会などからの推薦者で組織し、事業系は商工会議所とも調整し、適切な協議ができる委員構成にしたいと考えています。



問 現在、高齢者や福祉サービスを必要とする方は増えており、介護・保育・障がい者などへのサービスを一体的に提供できる仕組み作りが必要あります。①介護予防教室の充実②医療・在宅介護に関する相談窓口の設置③軽度・中等度の聴覚障がい児への補聴器購入費助成の導入④ヘルプマークの啓発や障がい者相談窓口の拡大について見解を伺います。

答 (市長) ④平成29年度から障がい者に特化した相談窓口を新設し、さまざまなケースに対応したいと思います。障がい者の自立支援も今後の大変な課題ですので、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

答 (保健福祉部長) ①本年4月から運動機能の不安を持つ方を対象としたトランസフィットネスという教室を導入し、充実したいと考えています。②医師会など関係機関と調整しながら、秋口までに設置したいと考えています。③新年度から県の支援が決定しており、これに上乗せして自己負担分を全額市で支援していくことを考えていました。④ヘルプマークは、県が県内市町村に配付の呼びかけをしており、この配付に協力していきたいと考えています。

- ・魅力あるまちづくりについて
- ・動物愛護の取り組みについて
- ・他の質問